

2022年4月30日発行

### 新今井館に託する思い

加納孝代

2022年の春、文京区本駒込の六義園のそばに、今井館が目黒区中根から新築という形で移転し、開館しました。理事の一人として喜びと共に今井館の持つ使命の重さに緊張感を覚えます。

私が今井館に関わるようになったのは2017年の秋でした。初めて出席した会議の席で、中根の今井館は資金難から閉じざるを得ないかもしれない、そうなれば今井館の蔵書を引き取ってくれそうなところを探すしかない、といったことを聞きました。今井館では当時、今井館の歴史と書籍・雑誌や、内村鑑三をはじめとする無教会の諸先達、諸先輩の方々を愛する十数人のボランティア・スタッフが働いておりましたが、今井館の蔵書類がその人々の手から離れたらどうなってしまうのだろうと不安な気持ちになりました。

私以上にそうしたことを憂えた方々が数多くおられたおかげで、今井館はその後、幾多の課題を克服して新築、移転、開館の時を迎えました。「今井館ニュース」第45号(2019年11月30日)以降にその間の経過が随時記されております。

私は1964年に東京大学に入学、その秋から柏陰舎聖書研究会(西村秀夫、鈴木皇、杉山好先生方がご指導)、翌年から杉山先生の家庭集会に出るようになり、現在までの50有余年を、聖書を指針として歩んできました。したがって無教会の先生方を通じて今井館に強い愛着を感じているのは言うまでもありません。しかし今井館の存在意義はそれだけにはとどまらないと思います。

それは内村鑑三、またその薫陶を受けた次の世代、そしてさらにその次の世代の方々が、近代日本の思想史、精神史、社会史に刻まれた、真つすぐで清冽な生涯を語り継ぐ場所という意義です。内村鑑三は天皇を国家の頂点とする価値観を批判しました。次の世代の一人、矢内原忠雄はアジアを植民地化して利を得ようとする国策を批判しました。そして三代目、私の師に



新今井館閲覧室

あたる柏陰舎聖書研究会の先生方は、真理の追求から逸れつつある大学の学問研究の姿勢を批判しました。

内村鑑三に始まる無教会の人々に共通するキーワードは「良心」だと私は思います。それらの先生方の社会分析における鋭い目と判断力、勇気ある発言と行動、そしてぶれることのない生涯はつねに「良心」に裏打ちされていました。必ずしも宗教としてのキリスト教にはシンパシーを感じていない広範囲の日本人にも深い感銘を与えてきたように思います。「今井館」や「内村鑑三」という固有名詞を知っている人、もっと良く知りたいと思っている人たちが、キリスト教の世界の外にも多くおられるということ、私は経験してきました。

この新築の今井館が、現代社会にあって「良心的に生きる」とはどういうことか、という問題意識を持った人々を魅きつけ、学びの一步を踏み出す場となつてほしいと切に願います。

(国立聖書研究会)

## 目次・内村鑑三の言葉

表紙について・発行趣旨……………2	岡野行雄さんを偲んで……………10
新今井館開館に寄せて……………3	学校・学寮だより……………12
内村鑑三と今井館……………5	各地からの報告……………15
内村鑑三記念キリスト教講演会 名古屋……………6	定期集会・地域別特別集会等……………17
柏木から目黒へ——今井館移転（1935年）のこと など……………8	事務局便り……………19
	維持会員募集のお知らせ・編集後記……………20

## 内村鑑三の言葉

## 戦争又戦争

日清戦争があった、日露戦争があった（中略）戦争又戦争である、此世の歴史は戦争又戦争の歴史である、唯神にありてのみ永久の平和があるのである、神は御自身で人類の罪を担ひて彼等に平和を申出たまふた、人は今は神の此申出にさへ応ずればそれで永久の平和が得られるのである

（選者注：第一次世界大戦は1914年7月28日に勃発した。上記はその年の暮、内村が『聖書之研究』173号に載せたものである。ルビは省いた。『内村鑑三全集』21巻、岩波書店、1982年）

（選：NPO法人今井館教友会相談役 大山綱夫）



## ○表紙について

『今井館ニュース』第52号巻頭言は、今井館副理事長加納孝代さんが、新今井館に寄せる思いを書かれました。今井館は常に、未来へ、また、広く社会へと、開かれた存在であることを、改めて知らせて下さいます。

写真は理事の上原和幸さんが撮影して下さった新しい閲覧室です。今号は、誌面刷新をもう一步進めて、念願のカラー化です。表紙も初めてカラーになりました。 (C.Y.)

## 『今井館ニュース』発行趣旨

NPO法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。